No.52
Practical Information for your Serendipity and Mind

ライティング支援連続セミナー 体験記
知識と言葉をめぐる冒険「文書リテラシー」

中央図書館ラーニング・アドバイザー
秋山茉莉花（生命環境科学研究科）

セミナー講師：三波千穂美先生（図書館情報メディア系）

Lesson1
小論文とレポートの違いはわかりますか？

2013/ 5/30(木) 15:30-16:30

どきどきしてしまうタイトルです。わかります、と知ったかぶるのは潔くやめておきます。レポートを課題として出す授業はありますが、レポートそのものについて問う授業はほとんどありませんよね。一体どんなセミナーになるのでしょうか？！

文書には目的があること、授業で課される課題では何を求められているのかをしっかり掴むことを学んだ後、本題の「レポート」「小論文」「論文」と書かれたスライドが映し出されました。
「レポート、小論文、論文の目的はそれぞれ何でしょう？近くの人と話し合ってください。」

論文がどんなものかはさすがに分かります。学術的な研究報告ですよね。研究の結果、新しい知見を得た、という報告をするための文書です。「論文」と並べられて言われると、「小論文」と「レポート」のことも分かりそうな気がしてきました。

話し合ったグループの中では、「論文、小論文、レポートの順で、より多くの読者に読んでもらう目的ために書かれている文書である。」「レポートの目的は事実の報告に重点を置いているが、論文は事実に基づいた考えを述べることに重点が置かれている、小論文はその中間である。」など、セミナーの始めに習った考え方を活かした意見が出ました。幾つかのグループが発表した後に三波先生が示した定義は……。

それぞれの文書の目的
レポート－報告
小論文－説得　（意見＋論拠）
論文－問題解決　（結論＋論拠）

どうですか、すっきりしたでしょうか？　この３つの文書は目的が明確に異なるものなのですね。今度はあなたが友達に「レポートと小論文の違いを知っている？」と自信を持って言う番です。

※あくまでこのセミナー内で紹介された定義の１つです。教員によって考え方は色々だと思います。

Lesson2　情報を構造化する

2013/ 6/6(木) 15:30-16:30

ライティングは著者と読者のコミュニケーションの一種。lesson2 は、コミュニケーションの話から始まりました。

「ＴＸの流山おおたかの森駅で、ある老婦人から『キャンパスはどこですか？』と聞かれました。」
さあ、皆さんなら老婦人に何と答えますか？

①私の通っているキャンパスはつくばにあります。
②ここから一番近いキャンパスは柏の葉にあります。
③次の駅が柏の葉キャンパスです。

三波先生は少し迷った末､③のような答え方をされたそうです。TX の駅で訊かれたので､老婦人の言った｢キャンパス」は「柏の葉キャンパス駅」を縮めて言ったのでしょうという解釈です。すると老婦人は納得して去ったので、その答え方は正解でした。しかし私なら､①を答えたくなってしまいます。読者の皆さんの中には②と答える方もいらっしゃるのではないでしょうか？　訊きたいこと、伝えたいことが正確に確実に相手に伝わるかどうかは、相手の解釈次第となることが度々あります。情報の発信者と受信者とのミスコミュニケーションを防ぐのが、ライティングにおいては文章の構造化です。

文章の構造化とは、平たく言ってしまえば、長い文章を章ごとに分けることです。論文の場合は、研究分野内で形式が決まっていることもあります。たとえば私の専門の生命科学分野の場合、１導入、２材料･方法、３結果、４考察、５結論、６参考文献という形式を踏んでいることが多いです。

論文以外にも構造化されている文章を探してみましょう。たとえば、ケータイの取扱説明書です。ここで演習を行いました。実際のケータイの取り扱い説明書の目次から抜粋した章の名前がばらばらに並べてあるプリントが配布され、自分で分かりやすいと思われる順番に章立てしました。

最後には本物の取扱説明書の目次のコピーが配布されました。すると取扱い説明書かくあるべし、と考えて作った自分の目次が、実際の目次とはかなり異なりました。比べて見ると、章の順番が変わるだけで、説明の内容までも違ってくるかのように見えてしまいます。文章の構造化のやり方次第で、その文章は生きることも死ぬこともあるのですね。

ライティング支援連続セミナーのスケジュールは Web で Check ！ http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/writing_seminar/chishikitokotoba.html

2013/07/10 発行